

令和3年度第60回岡山県高等学校総合体育大会参加者 健康調査用紙

- 大会役員 氏名 ()
- 選手 氏名 ()

選手や役員が以下の事項に該当する場合は、参加の見合わせを求めること

(試合当日の状態を記入) この提出書類は、1か月保管とする。

- 体調がよくない場合 (例: 発熱・咳・咽頭痛などの症状がある場合)
- 同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合
- 咳 (せき)、のどの痛みなど風邪の症状
- だるさ (倦怠 (けんたい) 感)、息苦しさ (呼吸困難)
- 嗅覚や味覚の異常
- 体が重く感じる、疲れやすい等
- 新型コロナウイルス感染症陽性とされた者との濃厚接触の有無
- 同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合
- 過去 14 日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合

【感染拡大予防対策】（日本スポーツ協会・日本ホッケー協会等ガイドラインに基づく）

主催者（主管団体）が留意する事項

大会での情報共有体制（運営自治体との情報共有）

選手や役員が以下の事項に該当する場合は、参加の見合わせを求めること（試合当日に書面で確認を行う）この提出書類は、1か月保管とする。

- 体調がよくない場合（例：発熱・咳・咽頭痛などの症状がある場合）
- 同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合
- 咳（せき）、のどの痛みなど風邪の症状
- だるさ（倦怠（けんたい）感）、息苦しさ（呼吸困難）
- 嗅覚や味覚の異常
- 体が重く感じる、疲れやすい等
- 新型コロナウイルス感染症陽性とされた者との濃厚接触の有無
- 同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合
- 過去 14 日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合

医療機関の選定と連携体制の確認ならびにチームドクターやチームとの連携

全般的な事項

- 選手の負担軽減を考慮した大会運営
 - ◆大会開催にあたっての選手、チーム関係者及び競技役員の種類検査(抗原・PCR・抗体等)については特に行わない。ただし、大会期間前後、大会期間中に上記項目に該当する事案が発生した場合等においては、速やかに主催者に対し報告することを義務づけるとともに、その後の指示に従っていただくことを周知させる。
 - ◆ホッケー競技の特性から、強度の高い運動とストレスにより、試合後は一時的に体力や免疫機能が低下する可能性が否定できません。選手と審判員の心身の負担軽減を考慮した特別ルール適用を感染防止策として考える必要があります。

特別規則

試合時間の短縮 12分／1ピリオド

使用用具や試合で使用したボールの消毒や機器の消毒等を確実にを行うために、試合のインターバルは、最低40分以上とする。

- 万が一感染が発生した場合に備え、個人情報の取扱いに十分に注意しながら、参加当日に参
加者より提出を求めた情報について、保存期間(少なくとも 1 か月以上)を定めて保存しておく。

主催者が準備すべき事項

手洗い場所では

- 手洗い場には石鹼（ポンプ型／感知式が望ましい）を用意する
- 「手洗いは 30 秒以上」等の掲示をする
- 手洗いが難しい場合、場所にはアルコール等の手指消毒剤を用意する

更衣室、休憩、待機スペースでは

- 広さにはゆとりを持たせ、他の参加者と密になることを避ける
- 利用時には「できれば 2 m（最低 1 m）間隔をあけて利用する」等の掲示をする
- 定期的に窓や出入口を開け、外気を取り入れる等の換気を行う
- ドアノブ、ベンチ、蛇口、トイレのレバー等、掃除係を決めて頻繁にそうじ消毒を行う

飲食物の提供時では

- 参加者が飲食物を手にする前に、手洗い、手指消毒を行うように声掛けをする
- 基本的にはマイボトルを持参し、飲み物の共有はしない
- 飲食物を取り扱うスタッフにはマスクを着用させる

管理に関する事項

観客の管理

- 無観客試合とする
- 応援はソーシャルディスタンスを保つ（最低でも 1 m）
- 会話をする場合にはマスクを着用すること等の留意事項を周知する

競技役員の管理

- 役員に体調管理チェックリストに該当するものがないか確認する
- オフィシャルテーブルではマスクを着用する
- 使用したパソコン、プリンター、筆記用具、ストップウォッチ等は、試合後必ず消毒する
- 審判員は試合終了後、使用した笛、インカムを必ず消毒し、うがいと手洗いを励行する
- 競技役員は、休憩施設においても、密な状態とならないようにすること。ただし、十分な休憩が取れるように静かに過ごし、試合前ミーティングは密室状態を避けて行う
- 試合中選手が怪我をして担架を要請された場合は、担架補助員は必ずマスク着用の上、処置後すぐに手指洗浄を実施する
- 試合前のトス、指示等を行う場合は、選出と役員や審判、あるいは選手同士はできる限りソーシャルディスタンスを保つ(最低でも1m)

参加者が留意する事項 1（試合前・試合後）

- マスクを持参する。（スポーツを行っていないとき、会話をする際には着用する）
- こまめな手洗い(流水で 30 秒以上)、アルコール等による手指消毒をする。
- 他者との距離（できるだけ 2 mを目安に（最低 1 m））を確保する。
- 試合前後のミーティング等においても三密を避ける。
- 感染リスクを下げるため、チームを守るために、更衣に時間差を設ける。他チームとの接触を極力避ける。
- クラブハウス等更衣室はチームが使用し退室する際に必ず窓を開放する。
- ミーティング、打ち合わせなどはできるだけ屋外で行う。
- トイレ蓋を閉めて汚物を流す。
- 飲食物を提供する際は、利用者が飲食物を手にする前に手洗いか手指消毒を行う。

参加者が留意する事項2（ピッチ上・ウォーミングアップ時・試合中）

- ピッチに入る際は、前試合のチームが撤去し、完全に消毒が完了してからベンチに入る。その際、ベンチに入った後でなければピッチ内での練習は認めないこととする。
- ミーティング、打合せ等はなるべく屋外で行う。
- ウォーミングアップの際はなるべく一直線に並ばず並走する、あるいは斜め後方に位置取りをしながら行う。
- ウォーミングアップ時は大きな声を出さない。
- ボールサーバーは、試合前後に必ず手洗いとうがいを励行する。
- 試合前のセレモニーは、選手紹介等を含めて一切行わない。
- 試合前のチーム円陣、掛け声は禁止する。
- 試合前のトス、指示等を行う場合は、選出と役員や審判、あるいは選手同士は最低1m間隔を空けて行う。
- タオルなどのリネンの共用はしない。必ず個人のタオルを使用する。
- 水筒は持参し、自分のものしか使わない。
- スティックや防具、装具は自分だけが使用し、他の選手が身につけたものは着用しない。特に顔に密着するPC防具は、使用者が明確になるように、試合前に識別用の印をつけることを義務とする。GK道具は自分のものしか使わない。
- チーム備品であるボール等、全員で使う道具はチーム管理とし、試合前に全て消毒する。
- ピッチ上（含ベンチ内）でマウスピースを洗わない。試合中は手でマウスピースを触らない。
- マウスピースを触ったら、必ず手洗い、消毒を励行する。
- 関係者は試合前、試合中、試合後を通じて、すべて握手をしない。
- 選手同士のハイタッチは行わない、身体接触があるコミュニケーションも禁止する。
- ピッチ上や会場内でつばを吐いたり、鼻水、痰（たん）を吐いたりしない。
- ベンチにいる監督やコーチは、マスクかフェイスシールドを着用する。
- 飛沫防止のため、ベンチ内での大声での指示等は、監督かコーチのみとする。
- 試合中選手が怪我をして担架を要請された場合は、担架補助員は必ずマスク着の上、処置後すぐに手指洗浄を実施する。
- 選手席は間を一人分空けて設置する。

チーム管理者が留意する事項

- 移動を含めて、できる限り人ごみを避ける。
- 移動時や人との会話をするなど試合以外の場所ではマスク着用の励行を指導する。
- 選手、チーム関係者、家族に対する教育・啓発と意識改革をする。（試合前後に必要なチェックリストに目を通し、徹底すべき事項を把握し、共有すること）
- マスクを使用する際の付け方、外し方、交換のタイミング、手指衛生を指導する。
- チーム関係者以外の方へ協力を要請する。（運転手、報道陣など）
- 人ごみに入るなど濃厚接触が生じた場合の記録をつける。（主なものを報告、あるいは記録）
- 選手を含めたスタッフの行動記録を記載し、感染経路把握に努めること。
※ 試合1週間まえより、なるべく不要な場所への外出は避け、シンプルな行動を心がけることを勧める。